

長いようで短い4年間でした。本日無事に所長職を辞することができ、感謝しております。この4年間、研究所の皆さんが命を失うほどの重大な事故、事件に巻き込まれることなく、つつがなく過ごされたことが何よりもよかったと思っております。その中で、私の在任中最大の目標だった研究所昇格ができ、本当にうれしいです。

私は在任中に気をつけたことは、

1. 触媒科学研究所の全体の発展
2. 各構成員一人一人の幸せです。

この二つが両立すれば本当にそれに勝るものはありませんが、決して、うまくいくわけではなかった。辛抱強く、できるだけこの2つが両立するように心がけました。4年間の私の在任中に嫌な思いをされた方々がおられることも承知しているつもりです。私の至らないところです。心からお詫び申し上げます。

一方で、ながながと問題の解決を先延ばしにした感があります。一番の適例はICATを決めるとき、たかが略称でしたが、教授の皆様にも長々と議論につきあっていただきました。本来だったら所長が鶴の一声で決めてしまうべきものなのでしょう。時間をかけて話し合うというのも私の流儀としてどうかお許しください。

今後、長谷川新所長のもと、触媒科学研究所の新時代が始まります。国立大学も倒産すると言われる時代にいよいよ入りました。法人化後の10年間どんどん大学の体力は衰えています。弱肉強食の競争の時代に入ったのかもしれませんが、しかし、私たちは野獣ではなく、人間であります。そして、触媒科学研究所の目標は単に世界最強の研究所になるということではありません。もちろん最もアクティブな研究所でなろうとしています。しかしその目標は共同利用共同研究という理念に支えられ、おおくの触媒研究者がここに集い、協奏して研究を進展させ、新しい触媒や研究を共創し、最終的に人類の永続的発展可能社会構築に貢献することです。それが真の日本の発展につながると思います。

末尾ながら、この4年間色々な方に支えられました。本当にありがとうございました。

朝倉清高